

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【外国につながる子どものためのバイリンガル指導者養成講座】

受託団体名 外国人親たちの学習教室

1 事業の趣旨・目的

外国につながる子どもが日本の学校に入学し、日本の教育カリキュラムに沿って教育を受ける事例が増えている。これらの子ども達の中には、日本語が不自由なために授業についていけないばかりか、学校生活自体になじめない子どももいる。母文化、習慣、教育制度やカリキュラム、指導方法の違いなどが問題を生じさせ、子どもが学校へ行けなくなる事例も見受けられる。これらの子どもたちへは、学校の教育現場からだけでなく、多くのボランティア、協力者から支援の手が差し伸べられているが、彼らが成長していくためには更にきめ細かい支援が必要であると思われる。

外国へつながる子ども達への支援の有効な方法の一つとして、子どもの母語を併用した指導方法を提案する。子どもが日本語を解さない段階では、母語を併用して指導することによって子どもが精神的な安定を得られるだけでなく、日本語、日本文化を理解する手助けになり、日本社会への早期適応を可能にするであろう。また、日本語中級程度の段階では、日本語だけでは理解できない事柄が母語を併用することにより理解できる事例が多く見受けられる。しかし、子どもの母語、母文化に精通している教員資格保有者を教育現場に配置することは非常に困難である。

現場で子どもの実情に合った指導をしていくには、日本語指導協力者、各ボランティア団体の人材を更に活用することが非常に効果的である。彼らに日本語教育のみならず、国語、算数等の教科指導、カウンセリング、日本の学校とのコーディネーション等、外国につながる子どものニーズを見極め、それに特化した研修を行い、更に専門的な知識を身に付けてもらう事が必要不可欠となる。

グローバル化、ボーダーレス化は今後更に進むであろう。日本に住む外国につながる子ども達が、世界的に評価の高い日本の教育制度の恩恵を受けながら、彼らの文化的多様性がもたらすメリットを十分に享受、活用しつつ、日本のみでなく世界に羽ばたいて活躍することを期待してやまない。そんな彼らのために技術や能力、熱意を持ったバイリンガル指導者を育成していくことが、本講座の最終的な目標である。

2. 企画委員会の開催について

日時	場所	出席者	議題	会議の概要
5月29日 [10:00－ 12:00]	さがみはら 国際交流 ラウンジ	平高史也 加藤朝男 加藤厚生 安部紘 崔 英善	講座運営方針 決定	趣旨説明、進捗状況説明、 カリキュラム案検討、 役割分担(準備委員の確保等)、 今後の予定等検討
6月18日 [10:00－ 12:00]	同上	加藤朝男 加藤厚生 安部紘 錦織三枝子	開催までの 工程確認等	進捗状況確認、 広報(7.15付け)の掲載依頼、 開講日までの工程表と担当者の決定
6月25日 [13:30－ 15:30]	同上	加藤朝男 加藤厚生 安部紘 錦織三枝子 竹澤実男 崔英善	開催までの 工程確認等	チラシ作成、受講者選考要綱の再検討、 日程最終確認、予算等の執行内容確認
7月26日 [13:30－ 16:00]	同上	加藤朝男 加藤厚生 安部紘 錦織三枝子 崔英善	選考について	進捗状況確認、 選考要綱の確定、 選考結果の郵送等の検討
8月2日 [13:30－ 16:00]	同上	加藤朝男 加藤厚生 崔英善	選考	選考
9月4日 [16:50－ 18:00]	同上	加藤朝男 加藤厚生 安倍紘 崔英善 渡部麻美	第1回講座の 反省等	第1回講座の反省、 運営体制の説明、報告、 今後の予定確認
11月6日 [11:00－ 12:00]	同上	崔英善 錦織三枝子 加藤厚生 古屋礼史	現状打ち合わせ	開講～現在までの様子、 公開講座の打ち合わせ
12月4日 [10:00－ 12:00]	同上	崔 英善 安部紘 王妃妍 山田重子	報告書について	報告書の役割分担検討



3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 外国につながる子どものためのバイリンガル指導者養成講座
- (2) 目標 外国につながる子どもの指導者の更なる質の向上により、外国につながる子どもが社会で自立して生活するための教育の質を向上させる。
- (3) 受講者の総数 19人
(出身国別内訳 人数順 日本8名 中国3名 韓国3名 フィリピン2名、ポルトガル、マレーシア、ベトナム、各1名)
- (4) 開催時間数 講義時間数：24時間 (全16回)
- (5) 参加対象者の要件
外国人（日本語、母語可能者）：日本語能力検定試験2級程度以上
日本人（日本語、外国語可能者）
いずれの場合も、日本語、子どもの母語に習熟しており課題意識を持って意欲的に学習する者であること。
- (6) 受講者の募集方法
- ① 相模原近郊各市教育委員会、かながわ国際交流財団等、公的機関にて募集要項等を配布
 - ② さがみはら国際交流ラウンジのホームページに掲載
 - ③ 相模原市広報誌に掲載
 - ④ 神奈川県内の関連ネットワークにメールにて配信
- (7) 会場
さがみはら国際交流ラウンジ(神奈川県相模原市プロミティ淵野辺ビル会議室)
- (8) 使用した教材・リソース
- | | | |
|------------------|---------|-------------|
| 日本語教育のためのプログラム評価 | 札野寛子 著 | ひつじ書房 |
| 会話教材を作る | 尾崎 明人 著 | スリーエーネットワーク |
| 日本語教育の過去・現在・未来 | 野山 広 著 | 凡人社 |
| 都市コミュニティの磁場 | 奥田 道大 著 | 東京大学出版会 |
| 講師独自教材 他 | | |

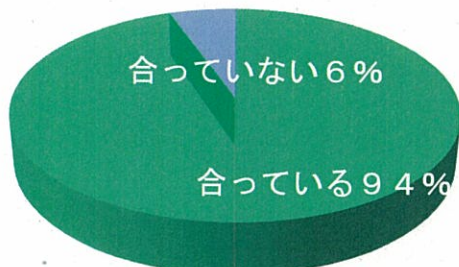
(9) 講座内容

開講日時	授業のテーマ	講師	参加人数
平成23年9月4日 13:00～13:30	開講式 オリエンテーション	講座運営委員会	15
13:40～15:10	バイリンガル指導者の概念理解	崔 英善 外国人親たちの学習教室代表	15
15:20～16:50	日本の外国人政策 (大震災後を展望して)	北脇 保之 城西大学客員教授	15
9月11日 13:00～14:30	子どもに合った日本語指導	佐々木 倫子 桜美林大学大学院教授	16
14:40～16:10	・日本語指導モデル授業 (非漢字圏) ・日本語指導モデル授業 (漢字圏)	シェイ 仁美 (相模台小学校国際教室教員) 柳 シンヒョン (桜美林大学大学院修士課程在籍)	16
9月18日 13:00～14:30	「移動する子ども」のことばの力とは何か	川上郁男 早稲田大学大学院教授	15
14:40～16:10	外国人教育相談の事例から	高橋 清樹 Me-net理事	15
9月25日 13:00～14:30	カウンセリングの基礎1 (心にかかわること)	森 さち子 慶應義塾大学准教授	17
14:40～16:10	カウンセリングの基礎2	石塚 昌保 四谷ゆいクリニック臨床心理士	17
10月2日 13:00～16:10	子どもを総合的に支援するために	築樋 博子 豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員	13
10月9日 13:00～13:45	数学(中)のモデル授業	照山 幸子 外国人親たちの学習教室講師	17
13:45～14:30	国語(小)のモデル授業	種埴 千代子 外国人親たちの学習教室講師	17
14:40～16:10	世界のバイリンガル指導者 (オーストラリアにおけるコミュニティ言語教育)	松田 陽子 兵庫県立大学教授	17
10月10日～ 11月5日	実習	受講生	19
10月14日 8:50～11:00	相模台小学校授業参観		11
11月6日 13:00～14:30	多言語による多文化 読み聞かせ大会	コメンテーター 中島 和子 トロント大学名誉教授	51
14:40～16:10	読み聞かせを通して育てるバイリンガル	中島 和子	51
11月13日 13:00～13:30	日本の学校システム	古屋 礼史 相模原市教育委員会指導主事	19
13:30～15:40	受講者 講義総括発表 修了式	相模原市・相模原市教育委員会 講座運営委員会 他	19
13:30～15:40	受講者 講義総括発表 修了式	受講生・運営委員	19

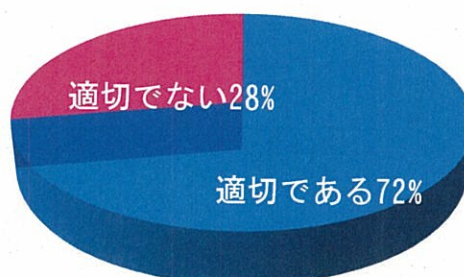
(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート(抜粋)

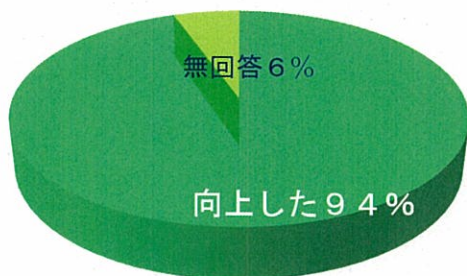
i. カリキュラムは講座の目的に
合っていると思うか？



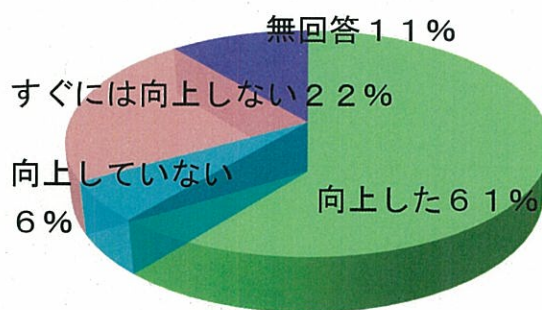
ii. 理論型と実践型、各講義の配分は
適切と思うか？



iii. 指導基礎能力は向上したと思うか？



iv. 指導能力は向上したと思うか？



v. 今後の課題についてどう思うか？

- * 異文化を受け入れる側への働きかけをしたい。
- * 多言語教育の実践について検討する素地を作り出したい。
- * レベルの異なる子どもを同時に教える技術を習得したい。
- * 子どもが楽しく学べる教材を開発したい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

i. 講座全体の出席状況

受講者19名の出席状況は以下のとおりであり、非常に高い出席率であった。

全講座出席4名 1回欠席9名 2回欠席6名

ii. 実習の効果

相模原市内での日本語教室や子ども学習教室で実習を行った。

また、国際教室を授業参観し、日本語指導講師との情報交換を行った。

いずれからも、現場の状況やニーズを把握し、より効果的な指導に役立てるための情報が得られ、非常に有意義であった。

iii 受講者からの反応

日本語教育の技術獲得に加え、メンタル面でのサポートの必要性の再認識、母語を併用して日本語を教える方法の有効性の再認識等、当講座の趣旨に合う数多く寄せられ、講座の目標を達成できた。

iv ニーズの把握

相模原市内だけでなく、平塚、藤沢といった都市の在住者からも受講の申し込みがあり、講座の重要性を再認識した。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

相模原市、かながわ国際交流財団からの後援が得られ、幅広い地域から受講生を集めることができた。

② 研修後の人材活用

- ・相模市教育委員・藤沢市・横浜市・川崎市教育委員会での活動
- ・2010・2011年度本講座の終了者を中心に、「バイリンガル指導者ネットワーク」が結成され、2012年2月中に第1回の会議が行われる予定。

(12) 今後の課題

- 1) 外国につながる子どもを中長期の視点で支援するため、本講座を継続的に行えるような仕組みを構築していく必要がある。
- 2) 高等教育へ対応できるバイリンガル指導者を養成する必要がある。
- 3) メンタルケアができる人材を養成する必要がある。

(添付資料 募集チラシ)

外国につながる子どもの指導

文化庁委託事業

バイリンガル指導者 養成講座

公開講座：11月6日(日)

13:00～

(当日参加OK)

中島和子先生(トロント大学名誉教授)

「読み聞かせを通して育てるバイリンガル」

➤多言語による

・多文化読み聞かせ大会

子ども指導の重要性

外国につながる子どもたちが将来幸せに生きていくためには、自立して社会参加できる能力を身につけなければなりません。しかし、まだ 日本語・母語ともに未熟な子どもが多く、その指導者の役割がたいへん重要です。

本講座のねらい

バイリンガル指導者とは、日本語・子どもの母語に習熟しており、かつ子どもたちにより効果的な指導が可能な方です。この講座を受けることにより、指導に必要な基礎知識やスキル・課題対応能力の習得が期待されます。

バイリンガルの特徴を生かした指導法を学び、

1ステップ上がった指導者になりませんか？

● 講座の特徴	・ 理論から実践まで ・ 短期集中型 ・ 多彩な講師陣 (大学教授、教育委員会、経験豊富な現場の先生等)
● 講座日時	・ 2011年9月4日～11月13日まで全8日間 ・ 毎週日曜日 13時～16時10分、90分2コマ
● 受講生募集	・ 募集期間：7月15日～23日まで ・ 定員：15名(応募者多数の場合は、書類選考となります。) (選考結果は、7/31までにお知らせします。) ・ 応募用紙：ラウンジ(ホームページからも得られます。)
● 受講資格 (バイリンガル)	外国人：日本語・母語可能者 日本人：日本語・外国語可能者
● 場所	さがみはら国際交流ラウンジ(横浜線淵野辺駅より徒歩4分)
● 授業料	文化庁からの委託のため無料

主催：外国人親たちの学習教室

後援：さがみはら国際交流ラウンジ

ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/sil>

・ 相模原市、相模原市教育委員会

・ かながわ国際交流財団